

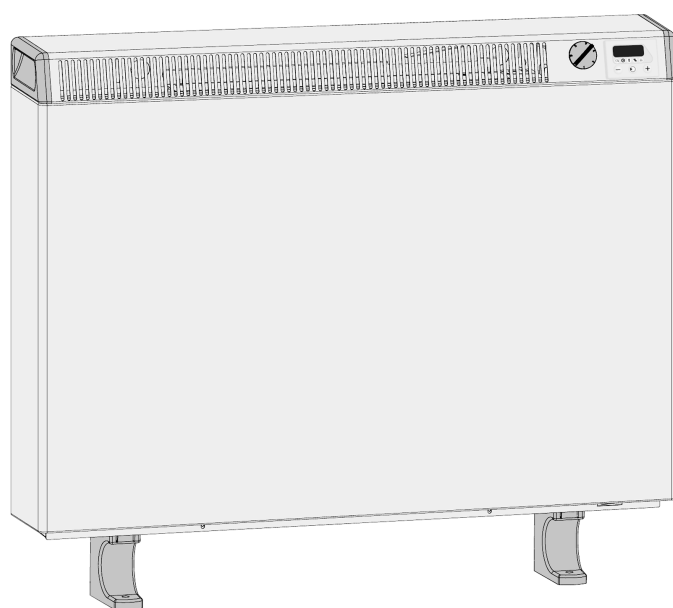
STIEBEL ELTRON

蓄熱式電気暖房器 取扱説明書

(取付説明書、保証書付)

品 名……スタティック
WSP-SEJシリーズ

型 名…… ●WSP-150SEJ
●WSP-220SEJ
●WSP-300SEJ



お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

- ご使用前にP.1「1.安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は、必ず保証書とともにいつでも見ることができる場所に保管してください。

日本スティーベル株式会社

[目次]

取扱説明書

1. 安全上のご注意	1
2. 各部のなまえと機器の特長	3
2-1 各部のなまえ	3
2-2 機器の特長	3
3. 運転のしかた	4
3-1. 現在時刻と通電時間の設定	4
3-2. 蓄熱量の設定	6
3-3. お部屋の暖めかた	11
4. 日常の点検とお手入れ	12
4-1. 暖房シーズン前の準備	12
4-2. 暖房期間中のお掃除	12
4-3. 機器の電池交換	13
5. 故障かな?と思ったら	14
6. 点検及び修理について	15
7. 仕様	16

取付説明書

1. 安全上のご注意	18
2. 各部のなまえ	21
3. 部品の確認	21
4. オプション (別売品) 部品	21
5. 標準仕様と配線図	22
6. 機器設置前の準備	23
6-1. 設置場所の確認	23
6-2. 電源配線の確認	23
6-3. シーズンセンサーへの配線	24
7. 機器の設置	26
7-1. 背面固定金具の取り付け	26
7-2. 配線の接続	27
7-3. 蓄熱体の組み込み	29
7-4. 機器外装の組み付け	30
8. 試運転の手順	31
保証書	33

1. 安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害の程度を次の区分で表示しています。

 警告 誤った取扱いをしたときに、死亡、または重傷に結びつく可能性があるもの。	 注意 誤った取扱いをしたときに、傷害、または家屋・家財等の損害に結びつくもの。
--	---

■ 本文中に使われている図記号の意味は次のとおりです。

 禁止マーク	してはいけないことを示します。
 注意マーク	注意することを示します。
 指示マーク	必ず行なうことを示します。



警告



禁止



絶対に改造はしないでください。



機器に水をかけないでください。また、機器が災害等により、濡れてしまった場合は、使用しないでください。



濡れた手で機器を操作しないでください。



機器を運転中、運転後は、機器表面や吹出グリルが熱くなっているので触らないでください。また、お子様が近寄らないようにしてください。



機器の運転中、運転直後は、機器表面や吹出し口が熱くなっていますので触らないでください。



機器の上や機器の近くに、ガス類等の可燃性物質や爆発の恐れがある物質を保管したり、使用したりしないでください。



機器に直接衣類等を置いて乾かししたりしないでください。



機器を正常に動作させるために、離隔距離の範囲内に物品を置かないでください。（離隔距離は、壁紙や棚、カーテン等の品質を保証する距離ではありません。）

	前面パネル	天板パネル	左面パネル	右面パネル
離隔距離	500mm以上	200mm以上	150mm以上	150mm以上

※カーテン等、全ての繊維類は、機器から200mm以上離してください。



指示



壁固定金具が正しく取り付けられ、機器がしっかりと壁面と床面に固定されていることを確かめてください。

-  震災等で万が一転倒した場合は、下記の項目を実施の上、日本スティーベル（株）に電話でご連絡ください。
- ①専用ブレーカを「切」（OFF）にしてください。
 - ②建物が揺れている間や、機器が傾いている間は機器に近づかないでください。
 - ③機器の上に落下物がある場合は、取り除いてください。
 - ④機器が熱い状態で転倒した場合は、機器の周りから床等に水を流してください。

-  お子様や身体に障害がある人が操作する場合は、監督者の管理のもと、または安全管理者による適切な指導を受けた上でご使用ください。

注意

禁止

-  機器の上に物を置いたり、物を貼ったり、機器に荷重を掛けたりしないでください。
-  機器のボタン電池は、「CR2032」以外を入れないでください。また、交換する際は、専用ブレーカが「入」（ON）の状態では作業をしないでください。
-  機器の隙間から、内部に物を入れないでください。

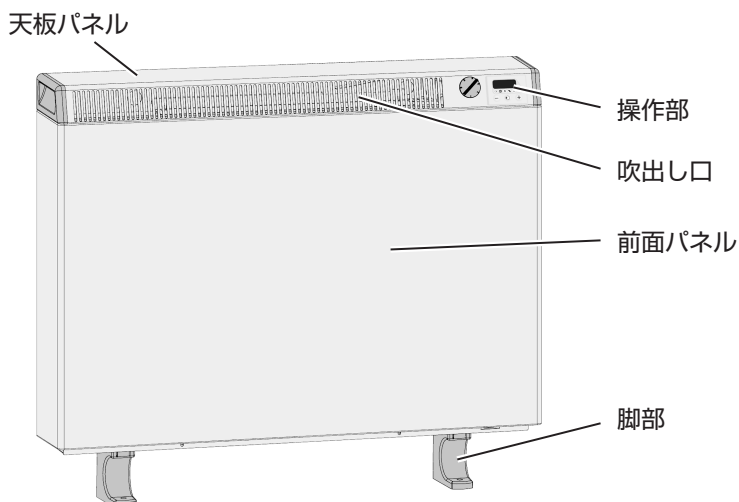
指示

-  機器をご使用になる前に【現在時刻】のずれ、【通電開始時間】と【通電時間】のずれを必ず確認してください。（P. 4「3-1. 現在時刻と通電時間の設定」参照）
-  【現在時刻】が点滅している場合は、必ずボタン電池を交換（P. 13「4-3. 機器の電池交換」参照）し、【現在時刻】を確認してください。（P. 3「2-1. 各部のなまえ」参照）
-  蓄熱時間中は、翌日の蓄熱量が不足する可能性があるため、できるだけファンを停止してください。
-  機器を使用した場合、暖房の熱等で家具や、棚等の木質系素材が反る、割れる、変形する可能性があります。機器周辺には乾燥、熱に対する対策が施してあるものをご使用ください。
-  機器を使用した場合、熱により周囲が変色する可能性があります。機器周辺には、熱に対する対策が施してあるものをご使用ください。
-  機器の所有者が変わる場合には、必ず本取扱説明書を新しい所有者に引き継ぎ、保管できるようにしてください。
-  機器に異常が発生した場合は、ファンを停止し、専用ブレーカを「切」（OFF）にして日本スティーベル（株）に電話でご連絡ください。
-  機器の修理をご依頼の際は、必ず本取扱説明書に付属している保証書を修理業者にご提示ください。
-  機器の移設を行なう場合は、日本スティーベル（株）にご相談ください。

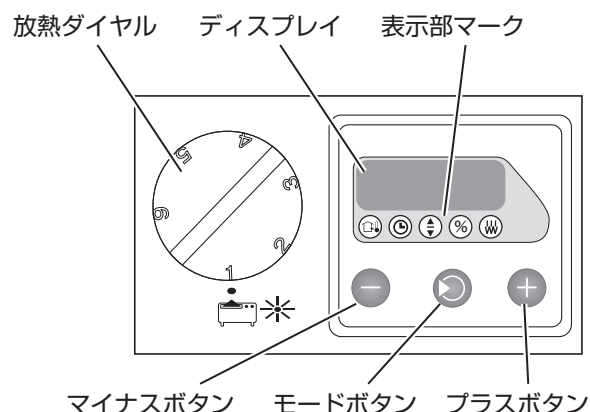
2. 各部のなまえと機器の特長

2-1. 各部のなまえ

(1) 機器外観



(2) 操作部詳細



(3) 表示マークのみかた

<時刻>

【現在時刻】を表示しています。
「モードボタン」を5秒間押し続けることで、時刻を変更できるようになります。

<設定表示>

点灯中は、同時に点灯している表示マークの値を「プラス／マイナスボタン」で設定できます。

<外気温度>

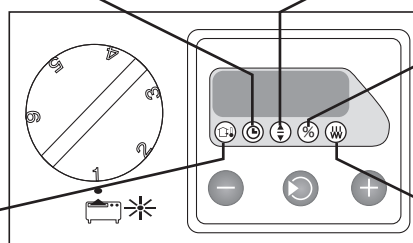
シーズンセンサーを使用している場合は、【平均外気温度】を表示します。

<蓄熱量>

左2桁が【現在蓄熱量】、右2桁が【設定蓄熱量】を表示しています。

<通電表示>

蓄熱時に点灯します。



2-2. 機器の特長

蓄熱式電気暖房器WSP-SEJシリーズ（本書中では、「機器」と表記）は、電気代が割安な時間帯の間に内部の蓄熱体に熱を蓄え、それ以外の時間帯は、蓄えた熱を放熱することにより部屋全体を暖める機器です。また、ファンを内蔵していないため、送風機の作動音が発生しません。さらに、火を使わないので、水蒸気が発生せず結露や灯油臭等がありません。アレルギーの原因となるカビや、ダニの発生を抑え、家にも人にも優しい暖かさを提供します。

ファンを内蔵していないため、お部屋を急に暖めることはできません。また、一時的に暖房を停止させるといった使い方には向いておりません。

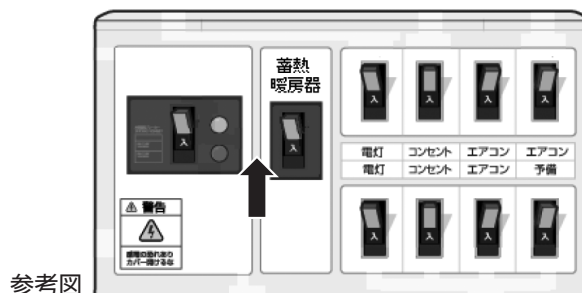
3. 運転のしかた

3-1. 現在時刻と通電時間の設定

3-1-1. 現在時刻の設定

①機器のブレーカを「入」(ON)にします。

②ディスプレイに表示が点灯することを確認します。



③操作部の「モードボタン」を押して、<時刻>を点灯させます。



④操作部の「モードボタン」を5秒間押し続けて、<時刻>と<設定表示>を点灯させます。

MEMO

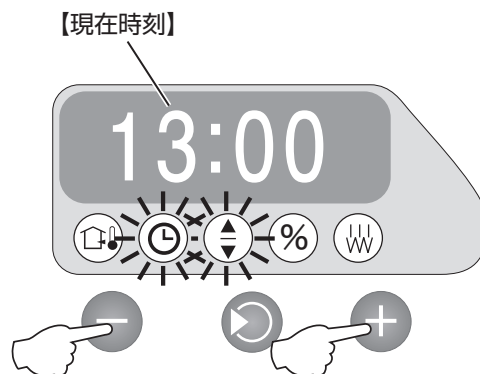
○「モードボタン」を押した際に表示が切り替わりますが、そのまま「モードボタン」を押し続けてください。途中で「モードボタン」を離すと設定モードに切り替わりません。



⑤<時刻>と<設定表示>が点灯している間に「プラスボタン」、または「マイナスボタン」で【現在時刻】を設定します。

MEMO

○【現在時刻】は1分単位で増減します。長押しすると、増減スピードが速くなります。



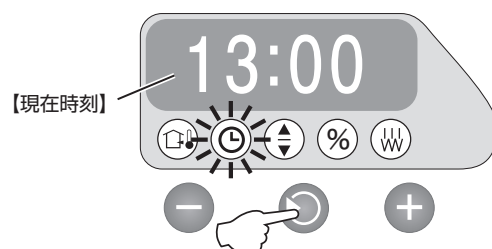
【重要】

○【現在時刻】がずれていると、電気代が高くなる場合があります。必ず【現在時刻】を日本標準時に合わせてください。

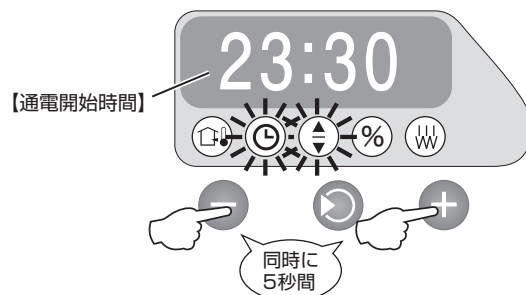
3-1-2. 通電時間の設定

①お客様の電気のご契約から電気代の安い時間帯を確認します。

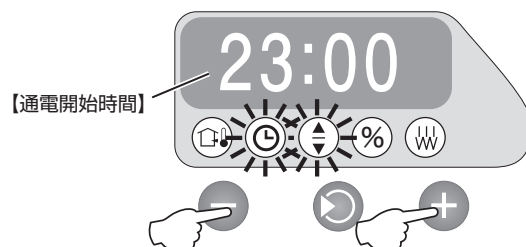
②「モードボタン」を押して<時刻>を点灯させます。



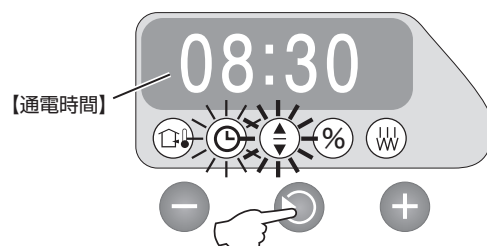
③<時刻>が点灯している状態で、「プラスボタン」と「マイナスボタン」を同時に5秒間押し続けて、<時刻>と<設定表示>を点灯させ【通電開始時間】を表示させます。



④<時刻>と<設定表示>が点灯している状態で、「プラスボタン」、または「マイナスボタン」を押して、【通電開始時間】を変更します。

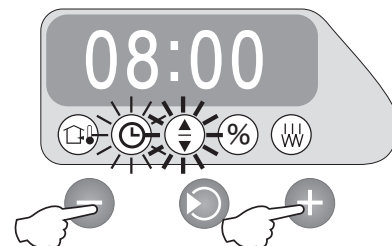


⑤④の状態から「モードボタン」を押して、<時刻>が点滅し、「設定表示」が点灯させ【通電時間】を表示させます。



⑥<時刻>が点滅し、<設定表示>が点灯している間に、「プラスボタン」、または「マイナスボタン」で【通電時間】を変更します。

⑦20秒間無操作か、「モードボタン」を押すと、変更が確定します。



MEMO

- 【通電時間】は、ヒーターに通電する時間の長さの設定です。通電を終了する時間ではありません。
- 【現在時刻】と間違えて設定しないように注意してください。

例) 【通電開始時間】を23:00、【通電時間】を08:00に設定した場合



【重要】

- 電気のご契約を確認の上、【通電開始時間】と【通電時間】を、電気代の安い時間帯に設定してください。この設定を行なわないと電気代が高くなる可能性があります。
- 【通電時間】を8時間未満に設定した場合は、通電終了時に【設定蓄熱量】まで蓄熱できない場合があります。

3-2. 蓄熱量の設定

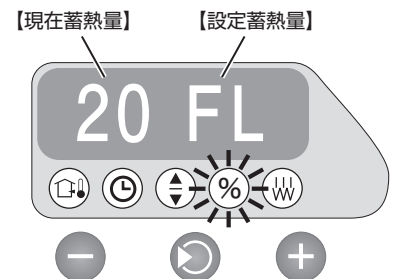
シーズンセンサーをご利用の方（【平均外気温度】が表示される）は通常、蓄熱量を設定する必要はありません。必要な場合は、P. 7「3-2-3項」に従って設定を変更してください。

3-2-1. 表示の見かた

4桁の表示のうち、左側の2桁は、【現在蓄熱量】、右側の2桁は、【設定蓄熱量】を示します。

【現在蓄熱量】と、【設定蓄熱量】がともに100%の場合は、「FULL」と表示されます

【設定蓄熱量】のみが100%の場合は、「〇〇FL」と表示されます。

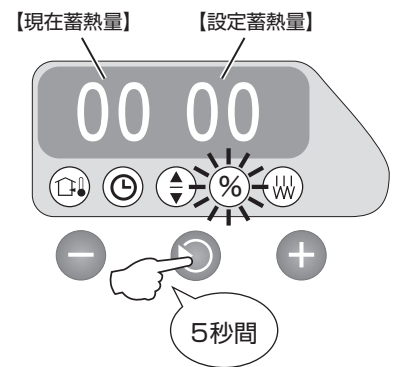


3-2-2. 操作部で設定する場合

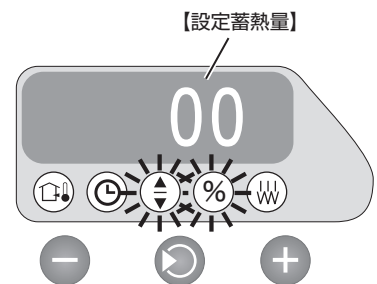
翌日の外気温度の予報が低い場合は、【設定蓄熱量】を多くし、翌日の外気温度が高い予報の場合は、【設定蓄熱量】を少なくして使用します。

(1) 蓄熱量の設定のしかた

①「モードボタン」を押して、＜蓄熱量＞を点灯させます。



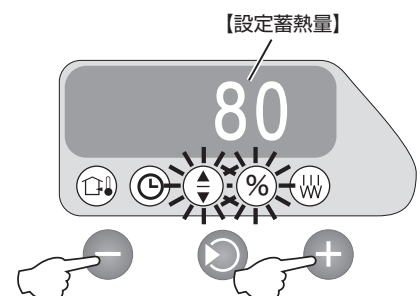
②「モードボタン」を5秒間押し続けて、＜蓄熱量＞と＜設定表示＞を点灯させ、【設定蓄熱量】を表示させます。



MEMO

○「モードボタン」を押した際に表示が切り替わりますが、そのまま「モードボタン」を押し続けてください。途中で「モードボタン」を離すと、右図の状態に切り替わりません。

③＜蓄熱量＞と＜設定表示＞が点灯している間に、「プラスボタン」、または「マイナスボタン」を押して、【設定蓄熱量】を10%単位で変更します。

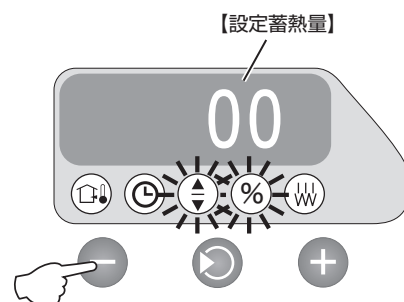


(2) 使用を停止する場合

- ①使用を停止する場合は、「マイナスボタン」を押して、【設定蓄熱量】を0%にします。
- ②専用ブレーカを「切」(OFF)にします。



- 長期間使用を停止する場合は、必ず専用ブレーカを「切」(OFF)にします。



3-2-3. シーズンセンサーをご利用で設定を変更する場合

(1) シーズンセンサー利用の有無を確認します。

- ①操作部の「モードボタン」を押して<外気温度>を点灯させます。
- ②<外気温度>が点灯した状態で、<平均外気温度>を表示している場合は、シーズンセンサーをご利用になっています。
- ③<外気温度>が点灯した状態で、【平均外気温度】が【— —】を表示している場合は、シーズンセンサーをご利用になっていません。



(2) 設定項目表

シーズンセンサー使用時は、次の項目を設定することができます。

ディスプレイ表示	用語	設定内容	設定範囲
0 XX	A: 蓄熱量の下限值	保持する蓄熱量の下限値を設定します。 【蓄熱開始時の外気温度】になると、必ず【蓄熱量の下限値】以上、蓄熱します。	0%~50%
1 XX	B: 最大蓄熱時の外気温度	【設定蓄熱量】を100%にする外気温度を設定します。 その外気温度を下回ると、100%蓄熱します。 【最大蓄熱時の外気温度】と【蓄熱開始時の外気温度】の関係から、【設定蓄熱量】を0%~100%で自動的に設定します。	-30℃~10℃
2 XX	C: 蓄熱開始時の外気温度	蓄熱を開始する外気温度を設定します。 その温度を下回ると、蓄熱を開始します。	0℃~25℃

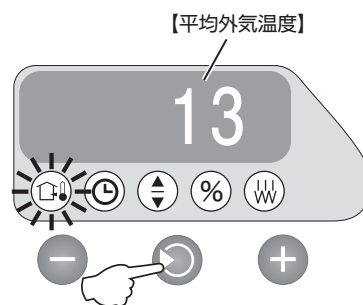
(3) 設定の変更

A: 設定蓄熱量の下限値の設定

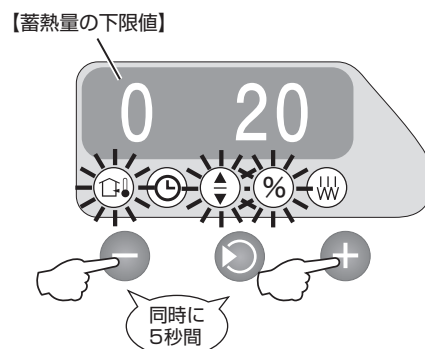
標準設定です。変更しないでください。

変更する場合は、0～50%の範囲で以下のように行ないます。

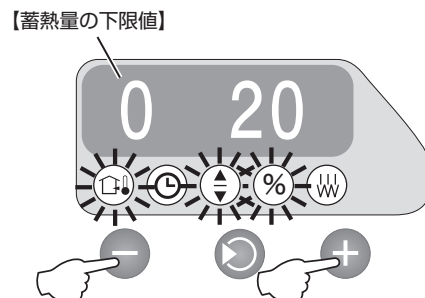
①「モードボタン」を押して、＜外気温度＞を点灯させます。



②「プラスボタン」と「マイナスボタン」を同時に5秒間押し続けて、＜外気温度＞、＜蓄熱量＞、＜設定表示＞を点灯し「0 20」と【蓄熱量の下限値】を表示させます。



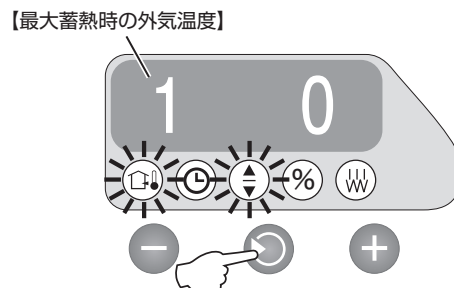
③②が点灯している間に「プラスボタン」、または「マイナスボタン」で＜蓄熱量の下限値＞を1%単位で変更します。



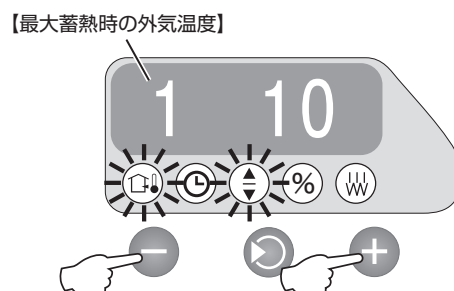
B: 最大蓄熱時の外気温度の設定

設定範囲は、-30℃～10℃です。

①Aの状態から「モードボタン」を押して、＜外気温度＞と＜設定表示＞を点灯し「1 XX」と【最大蓄熱時の外気温度】の表示に切り替えます。



②「プラスボタン」、または「マイナスボタン」を押して、1℃単位で【最大蓄熱時の外気温度】を変更します。



C: 蓄熱開始時の外気温度の設定

設定範囲は、0℃～25℃です。

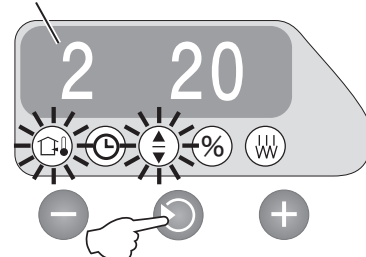
【最大蓄熱時時の外気温度】の設定より低い設定にはできません。

- ①Bの状態から「モードボタン」を押して<外気温度>と<設定表示>を点灯し、「2 XX」と【蓄熱開始時の外気温度】表示に切り替えます。
- ②「プラスボタン」、または「マイナスボタン」を押して、1℃単位で【最大蓄熱時時の外気温度】を変更します。

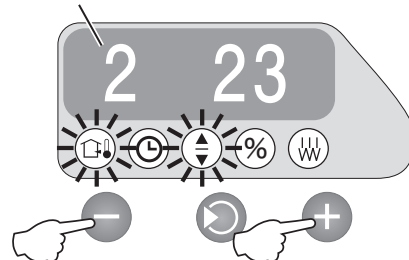
MEMO

- 10秒間無操作状態が続くと表示されている数字で確定し、【平均外気温度】の表示に戻ります。
-
- ③「モードボタン」を押すとA～Cの変更が確定します。

【蓄熱開始時の外気温度】



【蓄熱開始時の外気温度】



(4) 蓄熱を停止する場合

- ①外気温度が(3)Cで設定した温度以上になると、自動的に蓄熱を停止します。
- ②①以外で蓄熱を停止したい場合は、専用ブレーカを「切」(OFF)にします。

(5) こんな時は？

①お部屋が全体的に暖まりすぎる。→【最大蓄熱時の外気温度】の設定を低くします。

(例：10℃→-10℃図1から図2へ変更)

②お部屋が全体的に暖まりにくい。→【最大蓄熱時の外気温度】の設定を高くします。

(例：-10℃→10℃図2から図1へ変更)

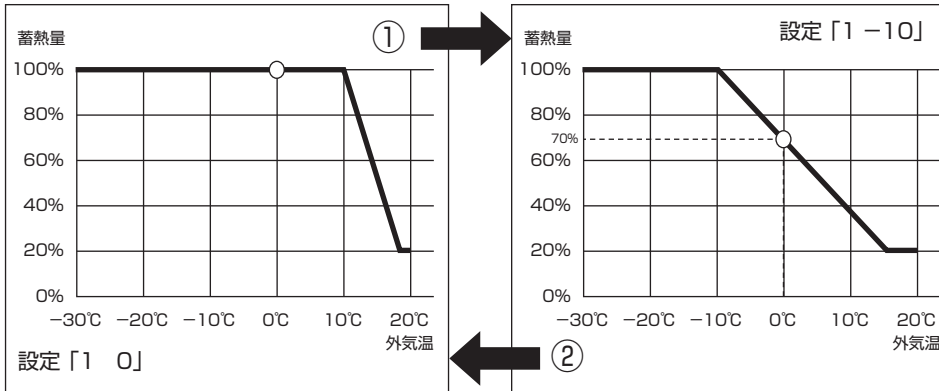


図1：0℃で100%蓄熱

図1：0℃で70%蓄熱

MEMO

○【最大蓄熱時の外気温度】の設定を変更することで、同じ外気温度でも【設定蓄熱量】が異なります。

③寒くなるまで暖房をしたくない。→【蓄熱開始時の外気温度】の設定を低くします。

(例：20℃→15℃図3から図4へ変更)

④早めに暖房を始めたい。→【蓄熱開始時の外気温度】の設定を高くします。

(例：15℃→20℃図4から図3へ変更)

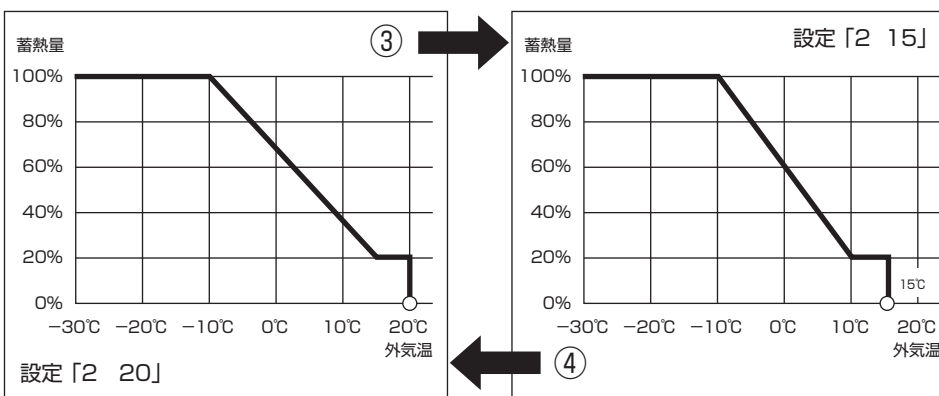


図3：20℃で蓄熱開始

図4：15℃で蓄熱開始

MEMO

○【蓄熱開始時の外気温度】の設定を変更することで、同じ外気温度でも蓄熱しなくなります。

3-3. お部屋の暖めかた

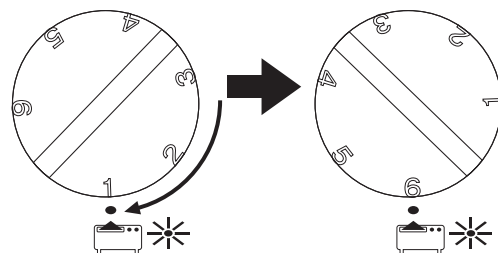
3-3-1. 放熱ダイヤルでの調節

- ①お部屋を現状より暖めたい場合は、放熱ダイヤル時計回りに回して、大きめに設定します。(1→6)



MEMO

- 【現在蓄熱量】が大きい場合は、一定量以上の放熱量にならないように自動調節されています。

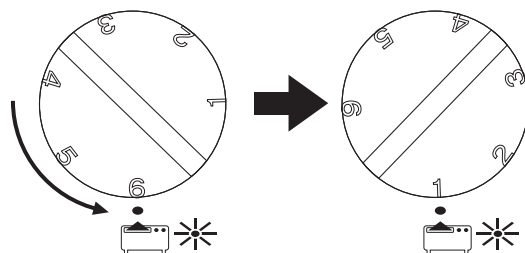


- ②お部屋が暖まり過ぎる場合は、放熱ダイヤルを反時計回りに回して、小さめに設定します。(6→1)



MEMO

- 放熱ダイヤルを小さくしても常にお部屋が暖まり過ぎる場合は、設定蓄熱量を小さくしてください。



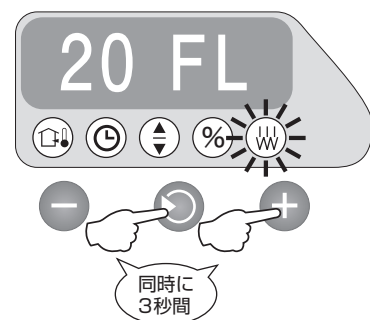
3-3-2. 蓄熱量が不足した場合

- ①操作部の「モードボタン」と「プラスボタン」を同時に3秒間押し続けます。
- ②＜通電表示＞が点滅し、追焚きを開始します。



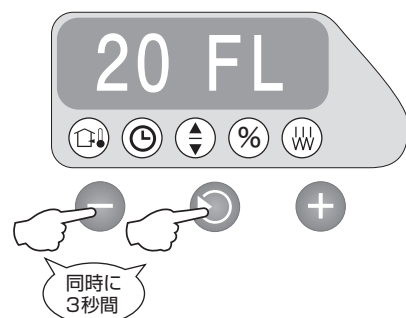
MEMO

- 【設定蓄熱量】が【現在蓄熱量】より大きくなければ追焚きを開始しません。
- 通電時間中は、追焚きできません。



- ③十分に蓄熱された後、操作部の「モードボタン」と「マイナスボタン」を同時に3秒間押し続けます。

- ④＜通電表示＞が消灯し、追焚きを終了します。



【重要】

- 電気代が高い時間帯に追焚きをかけると電気代が高くなる可能性があります。



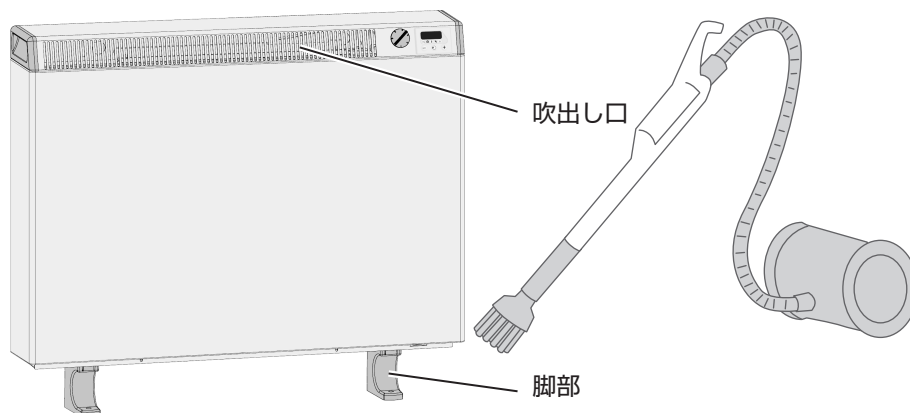
MEMO

- できるだけ追焚きをせずに済むように、前日に適切な蓄熱量を設定してください。

4. 日常の点検とお手入れ

4-1. 暖房シーズン前の準備

①機器の脚部周辺や、吹出し口のほこりを掃除機で清掃してください。



②P. 4「3-1. 現在時刻と通電時間の設定」を参照して、【現在時刻】が日本の標準時と合っているか確認します。

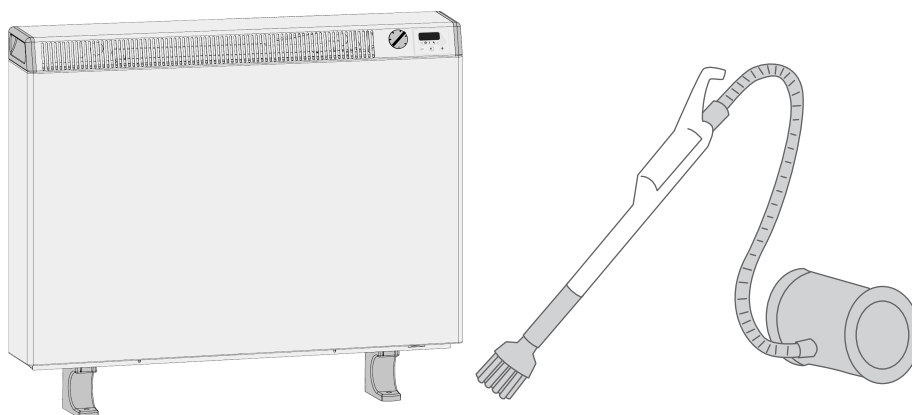
③P. 4「3-1. 現在時刻と通電時間の設定」を参照して、【通電開始時間】と【通電時間】が電気代の割安な時間帯に設定されていることを確認します。

【重要】

○【現在時刻】、【通電開始時間】、【通電時間】がずれていることによる電気代の増加分は保証しておりません。必ずお客様ご自身で、機器をご使用になる前にご確認ください。

4-2. 暖房期間中のお掃除

①機器の脚部周辺のほこりを掃除機で清掃してください。



MEMO

○蓄熱している状態機器に直接掃除機の吸込み口を当てると、掃除機が熱で破損する可能性があります。

4-3. 機器の電池交換

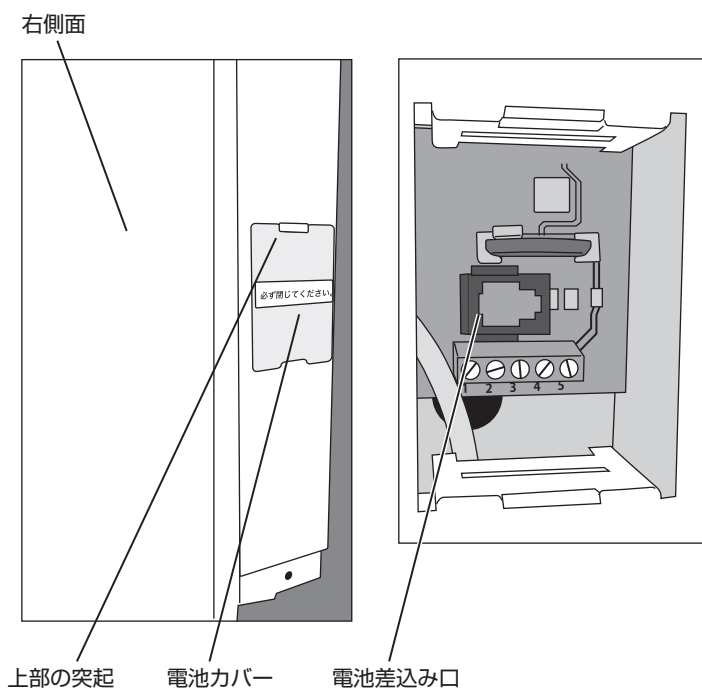
ディスプレイで【現在時刻】が点滅している場合は、専用ブレーカを「切」(OFF)にして、下記の方法でボタン電池を交換してください。

MEMO

○事前に、市販の「CR2032」ボタン電池1個をご用意ください。

- ①機器右側面奥の電池カバー上部の突起を下に押しながら手前に引いて、電池カバーを外します。
- ②新しい「CR2032」ボタン電池の「+」が上側になるように電池差込み口に設置します。
- ③電池カバーは、下側を機器に差込み、上側を機器へ押し込んで、固定します。

- ④電池カバーを閉じた後に、専用ブレーカを「入」(ON)にしてディスプレイの【現在時刻】がずれていないことを確認します。



5. 故障かな?と思ったら

下記の現象が見られる場合、はじめに専用ブレーカを「切」(OFF)にし、再度専用ブレーカを「入」(ON)にし、確認項目について処置内容を実施してください。

現 象	確認項目	処置内容	参照ページ
機器が温まらない。	機器の電源ブレーカの「入」(ON)「切」(OFF)	専用ブレーカをすべて「入」(ON)にしてください。	_____
	【設定蓄熱量】	【設定蓄熱量】を増やしてください。	P6. 3-2
	【通電時間】	【通電時間】が短い場合は長くしてください。	P4. 3-1
	機器の離隔	機器の離隔距離内に物を置かないでください。	P1. 1
ダンパーが開かない。	放熱ダイヤル	【現在蓄熱量】が低い状態で、かつ放熱ダイヤルが「6」に設定されていてもダンパーが開かない場合は、日本スティーベル(株)に電話でご連絡ください。	_____
深夜時間以外に蓄熱する。	【現在時刻】	【現在時刻】日本標準時に合わせてください。	P4. 3-1
	【通電開始時間】	【通電開始時間】を合わせてください。	P4. 3-1
	【通電時間】	【通電時間】を合わせてください。	P4. 3-1
専用ブレーカが落ちる。	_____	日本スティーベル(株)に電話でご連絡ください。	P15. 6
機器が熱過ぎる。	【通電開始時間】	【通電開始時間】を合わせてください。	P4. 3-1
	【通電時間】	【通電時間】を合わせてください。	P4. 3-1
	機器の離隔	機器の離隔距離内に物を置かないでください。	P1. 1

上記の処置後も現象が改善されない場合は、日本スティーベル(株)に電話でご相談ください。(P15.「6.点検及び修理について」参照)

次の場合は故障ではありません。

現 象	原 因	参照ページ
【現在時刻】が点滅する。	機器のボタン電池が切れかかっています。市販のCR2032電池を購入し、交換してください。	P13. 4-3
蓄熱、または放熱時に機器から音がする。	熱の影響による機器の熱膨張、または収縮による音で、異常ではありません。	_____
初期の運転時に臭いがする。	断熱材や蓄熱体、ヒーターに付着した成分等の臭いです。臭いがなくなるまで、お部屋を十分に換気してください。	_____
午後(夕方)になると吹出空気が暖かくない。	【設定蓄熱量】が低すぎた場合に起こります。	_____
機器からときどき「カチッ」と音がする。	機器内部の部品が動作している音で、異常ではありません。	_____
機器が通常よりも熱い気がする。	外気温や設置状況により、表面温度に変化が出ることがあります。	_____
【現在時刻】が合っているが、【通電開始時間】になっても蓄熱されない。	マイコン制御により、【通電開始時間】直後には蓄熱を開始しないことがあります。	_____

6. 点検及び修理について

(1) アフターサービス(点検・修理)を依頼される場合

アフターサービスを依頼される前に、この取扱説明書のP. 14「5. 故障かな?と思ったら」をよくお読みの上、それでも不具合がある場合、あるいは不明な点がある場合は、ご自分で修理をなさらないで日本スティーベル(株)に電話でご連絡ください。

TEL : 044-540-3203

アフターサービスを依頼される場合は、保証書をご覧の上、次の項目をお知らせください。

- ①型 名 : 銘板ラベルに記載
- ②製造番号 : 銘板ラベルに記載
- ③不具合の内容 : 蓄熱しない等の症状、及びご使用条件
- ④お取付け年月日
- ⑤お名前、ご住所、電話番号

(2) 補修用部品の最低保有期間について

この機器の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。補修用部品とは、その機器の機能を維持するための部品です。

(3) 保証について

この機器は、お取り付け日から1年保証です。

保証書は、お取扱い店、または施工店からお渡しいたしますので、必ず「お取扱い店」、「お取り付け日」、「製造番号」等の記入をお確かめになり、保証書の内容をよくお読みの上、保管してください。

修理を依頼される場合、日本スティーベル(株)に電話でご連絡ください。保証期間内であれば、消耗品を除き、保証書の記載内容に基づき無料修理を行ないます。保証期間を過ぎても、修理により機器の機能が維持できる場合にはご要望により有料修理いたします。

【現在時刻】、【通電開始時間】、【通電時間】がずれていることによる電気代の増加分は保証しておりません。必ずお客様ご自身で、機器をご使用になる前にご確認ください。



- お客様ご自身で分解、改造した場合は、保証期間であっても無料修理の対象となりませんので、予めご了承ください。
- 電気の配線工事、機器の設置工事に起因する問題に関しては、機器の保証期間であっても無料修理の対象とはなりませんので、予めご了承ください。

7. 仕様

型 名		WSP-150SEJ	WSP-220SEJ	WSP-300SEJ
ヒーター定格	電圧	単相／三相 200V		
	周波数	50／60Hz		
	消費電力 (kW)	1.50	2.25	3.00
最大蓄熱量 (kWh)		12.1	18.1	24.1
外形寸法	幅 (mm)	585	815	1045
	高さ (mm)	700		
	奥行 (mm)	220		
総質量 (kg)		88	129	175
蓄熱体質量 (kg)		64	96	128
蓄熱体	梱包数	4	6	8
	蓄熱体数	8	12	16
主要部品	ヒーター	高耐熱ステンレスシーズヒーター		
	蓄熱体	フェオライト		
	蓄熱体センサー	白金測音抵抗体		
	放熱ダンパー	バイメタル式		
	過熱防止器	手動復帰式過昇温防止器 / 自動復帰式過昇温防止器		
	電子基板	200V		
転倒回路遮断		転倒時回路遮断器（耐震センサー：傾斜60°以上で全回路遮断）		
オプション (別売品)	シーズンセンサー	サーミスターセンサー		
	通信ケーブル	シーズンセンサーケーブル延長用 耐熱性105℃以上 耐寒性-20℃ 難燃性		

WSP-SEJシリーズ 取付説明書

品 名……スタティック
WSP-SEJシリーズ

型 名…… ●WSP-150SEJ
●WSP-220SEJ
●WSP-300SEJ

取付工事店様へ

- この機器は、電気工事が必要となります。取付工事は必ず所定の資格を持った方が行なってください。
- この機器を正しく安全にお客様にご使用いただくために、取扱説明書、並びに取付説明書のP. 18「1. 安全上のご注意」をよくお読みの上、取付説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。
- 施工上の責任は当社では負いかねますので、万一施工に起因する不都合が生じた場合は、貴店の保証規定により修理していただくようお願い致します。
- 別紙、保証書（写）に必要事項を記入の上、必ず保管してください。

1. 安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害の程度を次の区分で表示しています。

 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡、または重傷に結びつく可能性があるもの。	 注意	誤った取扱いをしたときに、傷害、または家屋・家財等の損害に結びつくもの。
---	-------------------------------------	---	--------------------------------------

■ 本文中に使われている図記号の意味は次のとおりです。

 禁止マーク	してはいけないことを示します。
 注意マーク	注意することを示します。
 指示マーク	必ず行なうことを示します。

警告

禁止



絶対に改造はしないでください。



付属の電源ケーブルを外さないでください。



取外しの指定がない部品は、取り外さないでください。また、指定されている付属部品以外は使用しないでください。



200Vの電源ケーブルに100Vの屋内配線を接続しないでください。



機器に水をかけないでください。また、機器が災害等により、濡れてしまった場合は、使用しないでください。



屋外や湿気の多い場所、浴室内には設置しないでください。



濡れた手で機器を操作しないでください。



機器を試運転中、試運転直後は、機器表面や吹出グリルが熱くなっているので触らないでください。



機器の近くに、ガス類等の可燃性物質や爆発の恐れがある物質を保管したり、使用したりしないでください。



他の機器と隣接させないでください。



畳、じゅうたん、クッションフロア等の上には絶対に設置しないでください。



全ての端子台のネジは必ず増締めし、増締めを行なわないまま、引き渡さないでください。



注意



電源ケーブル等の配線は最小の長さにして、周囲に遊びをとらないでください。



電源ケーブルを機器内部で弛ませないでください。



指示



アースは第三種接地工事（D種接地）を行なってください。



専用の漏電ブレーカを必ず設置してください。



電圧は定格電圧の±10%以内であることを確認してください。



屋内配線は、電源仕様、定格電流、及び消費電力を左面パネル下部の銘板ラベルで確認して、必ず内線規程に従って配線を行なってください。



ジョイントボックスは、機器の右面パネルから50mm以上離して設置してください。



端子台の配線と右面パネル裏の結線図ラベルの配線が一致していることを確認してください。



コネクタ類が抜けたり、緩んだりしていないことを確認してください。



機器は、適切な壁補強、並びに床補強がされた、壁面と床面に固定してください。



機器を正常に動作させるために離隔距離を守ってご使用ください。

	離隔距離	備 考
前 面	500mm以上	暖房機能確保のため
左 面	150mm以上	メンテナンススペース確保のため
右 面	150mm以上	メンテナンススペース確保のため
天 板	200mm以上	本体温度が高くなるため

※カーテン等、全ての繊維は、機器から200mm以上離してください。



設置地域の火災予防条例に則した離隔距離を守ってください。



注意



禁止



設置前の機器や蓄熱体は、雨水が当たる場所や、雪上、氷上に置かないでください。



機器の天板パネルの上に物を置いたり、寝転がったり、機器に荷重を掛けたりしないでください。



機器のボタン電池は、「CR2032」以外を入れないでください。また、交換する際は、機器の専用ブレーカが「入」（ON）の状態では作業をしないでください

注意



機器のパネルやグリル等を外す場合は、怪我をしないように気を付けてください。



蓄熱体は、落としたりしないよう両手で持って運んでください。

指示



試運転の際に、【現在時刻】、【通電開始時間】、【通電時間】をお客様の電気契約に適した設定にしてください。(P. 4「3-1. 現在時刻と通電時間の設定」参照)



＜現在時刻＞が点滅している場合は、必ずボタン電池を交換し、【現在時刻】を確認してください。(P. 12「4. 日常の点検とお手入れ」参照)



仕上材、及び下地材に使用する木質材料、固定用の接着材等にはホルムアルデヒド等のVOCの放散が基準値以下になるものを使用してください。



棚下等に設置した場合は、棚板等の含水量や空気の乾燥度によって反る場合があります。正しい離隔が保たれていても、板等の反りや割れについて保証しておりません。



壁紙、床材等は、熱で変色しないもの、防災仕様のもの、清掃可能なものを使用してください。



機器の異常を発見した場合は、お客様に引き渡さず、日本スティーベル(株)に電話でご連絡ください。



検査記録表(P. 31「8. 試運転の手順」)に試運転時の検査記録を必ず記入してください。



取扱説明書の保証書に、お客様、お取扱い店、お取り付け日、製造番号等の必須事項を記入し、お取扱い店、及び取扱責任者印を捺印してください。

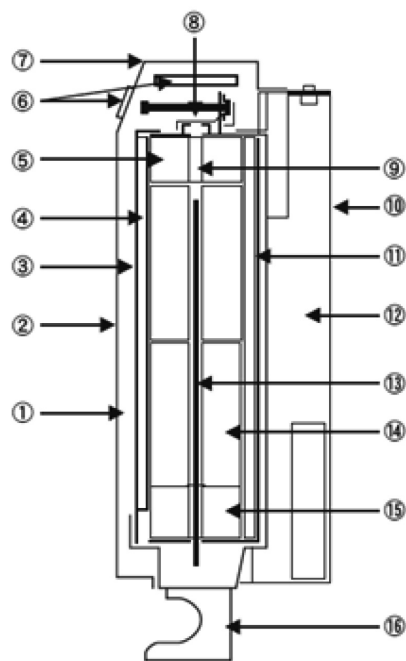


工事終了後は、必ずお客様に取扱いの説明を行なってください。直接説明できない場合は、現場責任者等代行者に説明し、必ずお客様に取扱いの説明がなされるようにしてください。



取扱説明書をお客様に必ず保管していただくようお願いしてください。

2. 各部のなまえ



- ①前面空気ダクト
- ②前面パネル
- ③バッフル板
- ④前面断熱材
- ⑤上部断熱材
- ⑥吹出し口
- ⑦天板
- ⑧ダンパー
- ⑨内部空気ダクト
- ⑩背面カバー
- ⑪背面断熱材
- ⑫背面空気ダクト
- ⑬ヒーター
- ⑭蓄熱体
- ⑮下部断熱材
- ⑯脚部

3. 部品の確認

●次の部品があることを確かめてください。

部品名	同梱場所	部品名	同梱場所
機器本体	—	脚 × 2	機器背面
蓄熱体	別梱包	壁固定金具セット	機器内部
取扱取付説明書（保証書付）	暖房器天板パネルの上		

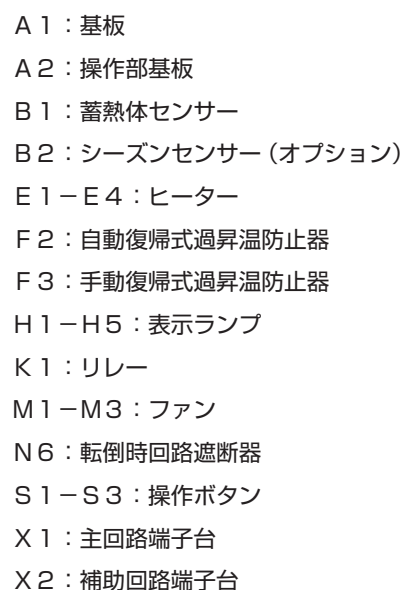
型 名	WSP-150SEJ	WSP-220SEJ	WSP-300SEJ
蓄熱体梱包数 () 内は蓄熱体個数	4 (8)	6 (12)	8 (16)

壁固定金具セット

型 名	WSP-150SEJ	WSP-220SEJ	WSP-300SEJ
背面固定金具固定用ネジと ワッシャー (6.40)	4	4	4

4. オプション（別売品）部品

シーズンセンサー	サーミスターセンサー
通信ケーブル	シーズンセンサーケーブル延長用 耐熱性105℃以上 耐寒性-20℃ 難燃性

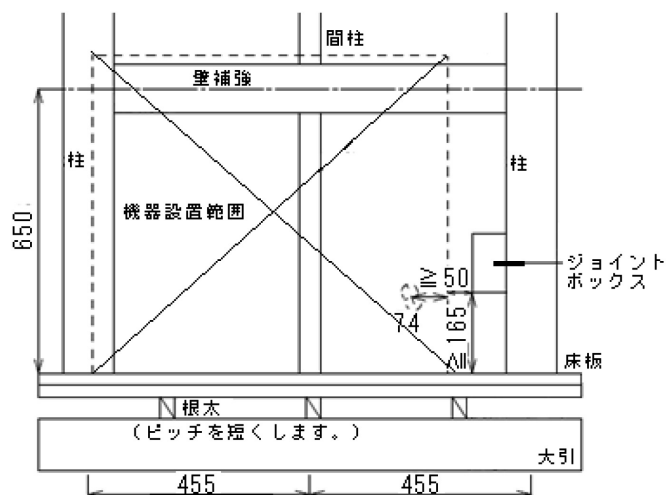


【通電開始時間】と【通電時間】は、電力契約に合わせて変更します。

6. 機器設置前の準備

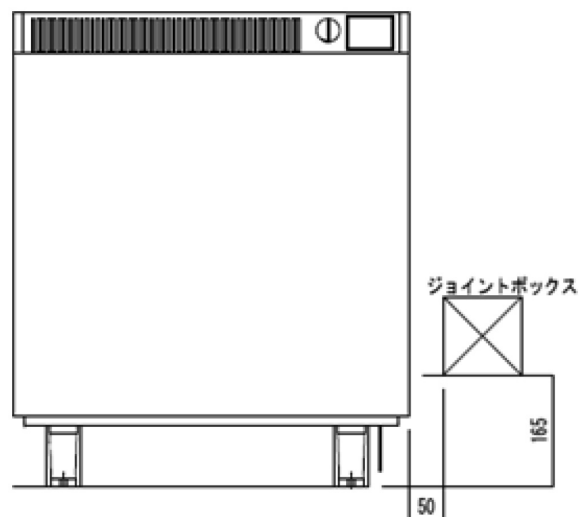
6-1. 設置場所の確認

- ①機器設置位置の床に、機器の質量に耐える補強がしてあることを確認します。
- ②機器設置位置に畳や、じゅうたん、クッションフロア等が敷かれていないことを確認します。
- ③機器設置位置の床面の傾斜が水平であること（床の傾斜 $\leq 3/1000$ ）を確認します。
- ④機器設置位置の壁が、合板等で柱や間柱（床 650mm の高さ）に固定してあることを確認します。
- ⑤機器設置位置の右端から 50mm 以上離れた位置のジョイントボックス内で、屋内配線と電源ケーブルを接続できることを確認します。
- ⑥屋内配線が、内線規程に適合した配線であることを確認します。
- ⑦機器の離隔距離が守れることを確認します。
- ⑧壁紙、床材等は熱で変色しないもの、防災仕様のもの、清掃可能なものが使用されていることを確認します。



6-2. 電源配線の確認

- ①機器設置位置の右端から 50mm 以上離れた位置にプレート付きジョイントボックス（深型）を設けてください。
- ②ヒーター用電源 200V 単相の1次側配線を予め準備してください。



※総消費電力で 200V 配線（アース付）の電線太さは変わります。

総消費電力 (kW)		1.50	2.25	3.00
漏電ブレーカ 定格電流 (A)		15	20	20
分岐回線の 最小太さ	VV (mm)	1.6 (20)	1.6 (15)	1.6 (15)
	CV (mm ²)	2 (20)	2 (14)	2 (14)

() 内の数値は単相 200V の場合における電圧降下 2% のときの電線こう長です。この数値以上の長さが必要な場合は、1段階太い電線をご使用ください。

6-3. シーズンセンサーの配線

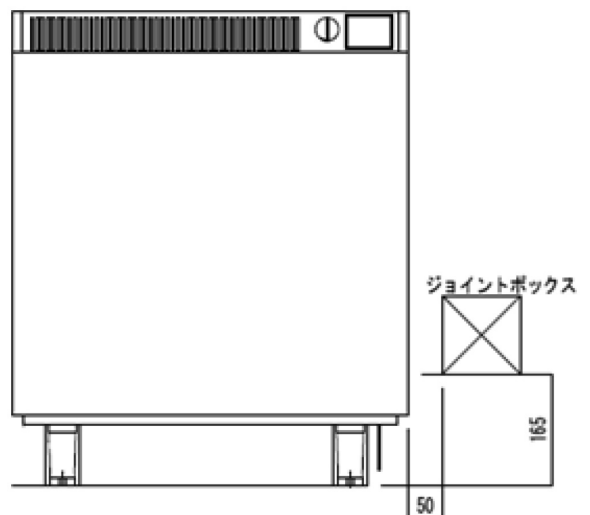
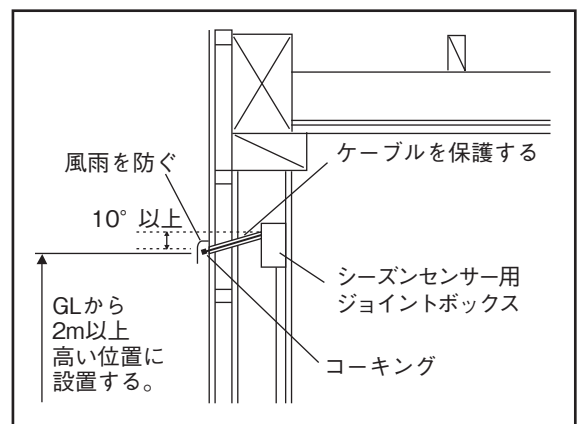
6-3-1. 設置場所の選定

- ①シーズンセンサーの先端が、日射や風雨に直接さらされない場所へ設置してください。
- ②シーズンセンサーの先端を、地面や床の近くに設置しないでください。輻射の影響により正確な温度が検知できない可能性があります。
- ③外壁や軒下に設置する場合は、住宅の排気が当たらない場所に設置してください。
- ④下記のいずれかに当てはまる場合は、床下にシーズンセンサーを設置しないでください。
 - i) 基礎断熱している住宅の場合。基礎内が暖かいため蓄熱しなくなる可能性があります。
 - ii) 床暖房をしている住宅の場合。床暖房の影響を受けて蓄熱しなくなる可能性があります。
 - iii) 床下に暖房器を設置している住宅の場合。基礎内が暖かいため蓄熱しなくなる可能性があります。
 - iv) 基礎に囲まれた空間が、外気温と著しく異なる温度になる場合。基礎内が暖かく蓄熱しなくなる可能性があります。

6-3-2. シーズンセンサー設置

- ①シーズンセンサー用ジョイントボックスを接続、及び点検可能な場所に設置します。
- ②シーズンセンサーを外壁に通す穴には、絶縁チューブを入れる等ケーブルの保護対策を施してください。
- ③シーズンセンサーは外壁に向け 10° 以上の傾斜を設けてください。
- ④シーズンセンサーを通した穴は、コーキングし、雨水の侵入を防いでください。
- ⑤ケーブルは機器から内壁、または床に入る箇所と、シーズンセンサー先端近くで必ず固定してください。
- ⑥機器の端子台への接続には、2芯 0.5mm^2 以上、耐熱 105°C 以上の自己消火性のあるケーブルを使用してください。
- ⑦シーズンセンサーの配線ケーブルは、他の電源ケーブルと近接して並行させないでください。(150mm以上離さないとノイズを拾い正常に機能しない可能性があります。)
- ⑧機器設置位置の右側から50mm以上離れた位置に分岐用ジョイントボックスを設置します。

なお、電源ケーブル用のジョイントボックスと共用することができます。
- ⑨シーズンセンサー先端を接続した屋内配線を、①で設置したシーズンセンサー用ジョイントボックスに引き込みます。



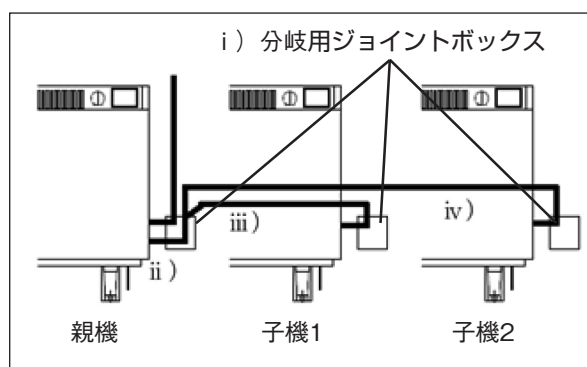
6-3-3. 子機のシーズンセンサーへの配線

(1) 分岐ジョイントボックス内での配線の分岐の場合

①機器間に 0.5mm^2 以上で2芯の屋内配線を以下の通り準備します。

- i) シーズンセンサーからの配線
- ii) 子機への配線
- iii) 親機から子機1への配線
- iv) 親機から子機2への配線

②①の配線を引き込むための、分岐用ジョイントボックスを準備します。

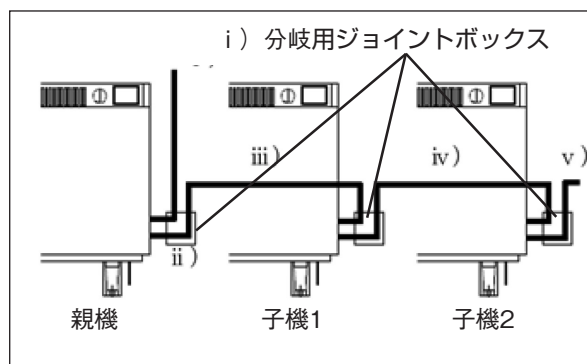


(2) 機器内部端子台での分岐の場合

①機器間に 0.5mm^2 以上で2芯の屋内配線を以下の通り準備します。

- i) シーズンセンサーからの配線
- ii) 子機への配線
- iii) 親機から子機1への配線
- iv) 子機1から子機2への配線
- v) 子機2から子機3への配線

②①の配線を引き込むための、分岐用ジョイントボックスを準備します。



MEMO

○シーズンセンサーからの配線 i) は、分岐させないでください。(P. 27「7-2. 配線の接続」参照)

7. 機器の設置

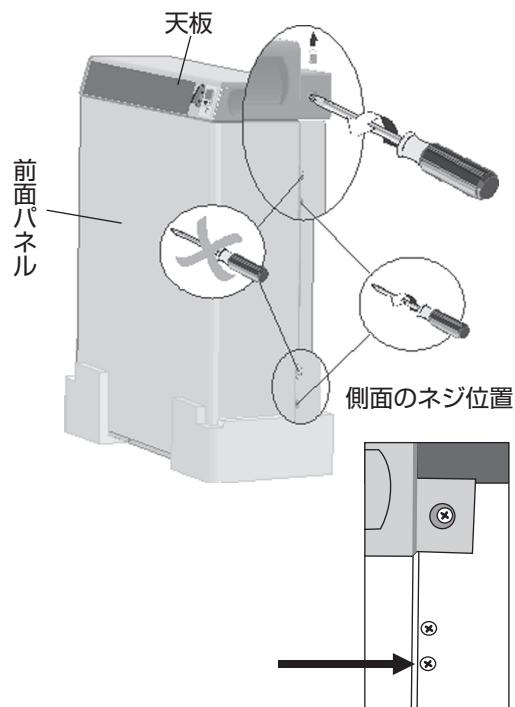
7-1. 背面固定金具の取り付け

7-1-1. 外装の取り外しかた

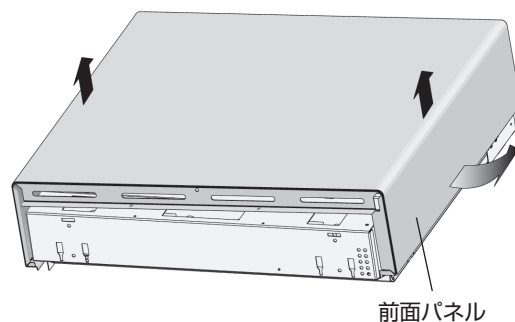
- ①天板の上面全てのネジおよび側面のネジ左右各1本をプラスドライバーで外し、天板を前にスライドさせて外します。
- ②操作部の基板に接続してあるケーブルを一旦抜きます。
- ③前面パネル両側面各2ヶ所のネジと、下部2ヶ所のネジをプラスドライバーで外します。

MEMO

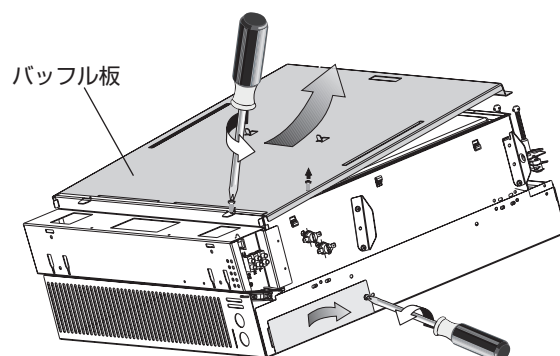
- 前面パネル側面には上下それぞれ2本のネジがありますが、上下それぞれ下側のネジを外します。



- ④前面パネルを向って右側から開くように取り外します。

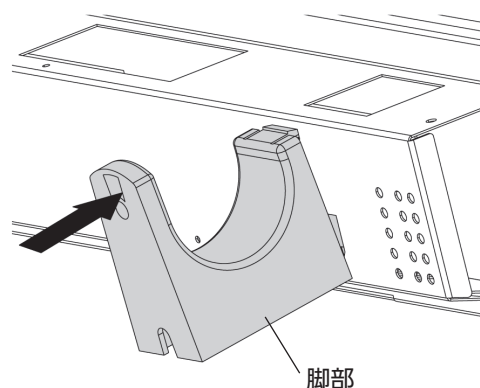


- ⑤前面バッフル板を固定しているネジをプラスドライバーで全て外します。
- ⑥前面バッフル板を上方向に引き抜きます。
- ⑦中に入っているダンボール製のスペーサーと、脚部、壁固定ネジセットを取り出します。



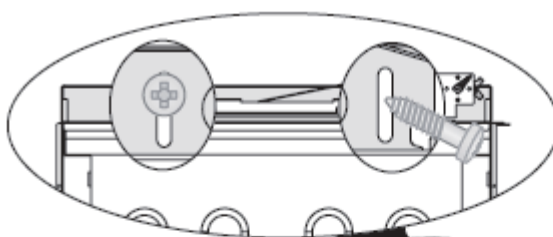
7-1-2. 背面固定金具の固定

- ①脚部は機器の下部の角穴に後部を差込み、前部を機器に下から上に押しはめ込みます。



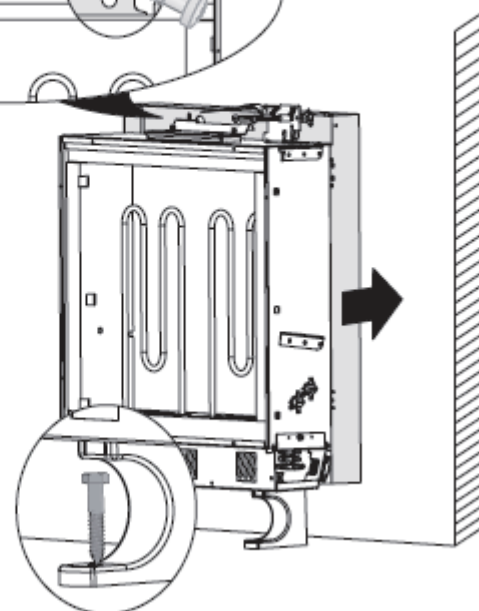
- ②機器を壁と床面にぴったりと押し付け、上部奥のネジ穴を使用して付属のネジとワッシャーで壁面に固定します。

- ③機器の脚部先端のネジ穴を使用して付属のネジとワッシャーで脚部を床面に固定します。



おねがい

- 背面固定金具を壁に取り付ける際は、必ず機器に応じた指定本数のネジとワッシャー（P. 21「3. 部品の確認」を参照）を使用してください。
- プラスターボードや壁の厚み等により同梱のネジでは長さが長すぎる場合や、短い場合は、直径6mmの適切な長さのネジをご用意ください。



7-2. 配線の接続

7-2-1. 電源ケーブルとの接続

- ①屋内配線と機器の電源ケーブルを圧着接続します。
- ②接続部はジョイントボックスに収納します。
- ③機器の黄色／緑のアース線を屋内配線のアース線と圧着接続します。

MEMO

- スリーブの絶縁処理は、自己融着テープを使用します。
- 電源ケーブルは、決して減線等せず、ケーブルの太さに適したスリーブを使用します。

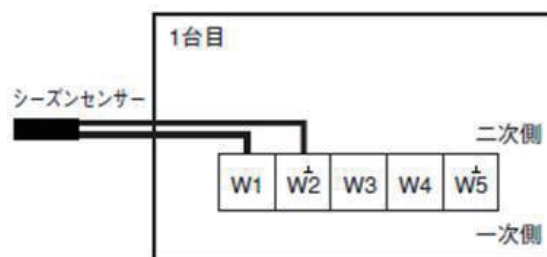
7-2-2. シーズンセンサーとの接続

- ①シーズンセンサーの接続は、右面パネル内の端子台「W1～W5」を使用し、以下の結線図を参照し正しく接続してください。
接続を誤ると正しく動作しません。
- ②機器内部へ引き込む配線は必ず耐熱ケーブルをご使用ください。
(シーズンセンサーの素材は耐熱ケーブルです。シーズンセンサーを切断して使用することも可能です。*右図参照)



(1) 単独 (1台) でシーズンセンサーを使用する場合

- ①1シーズンセンサーの配線を端子台「W1」、「W2」の二次側へ接続します。(シーズンセンサーのケーブルに、極性はありません。)



(2) 複数台でシーズンセンサーを使用する場合

- ①並列接続の場合 (10台以下の場合には、並列接続を推奨します。)
シーズンセンサーの信号を受ける親機を決めます。

MEMO

- 親機 (1台目) のブレーカを「切」(OFF) にすると、シーズンセンサーの信号が子機へ伝わらなくなりますので、暖房期間中最後まで使用する機器を、親機にすることをお勧めします。

親機 (1台目) から子機への接続 (極性あり)

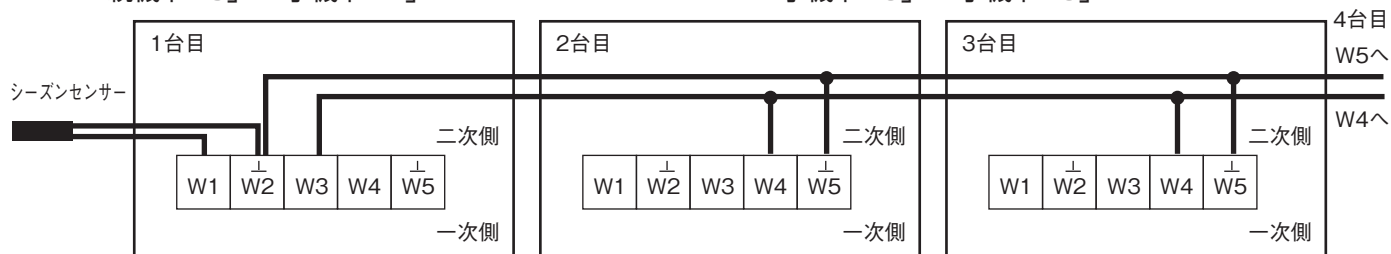
親機「W2」→ 子機「W5」

親機「W3」→ 子機「W4」

子機間の接続

子機「W4」→ 子機「W4」

子機「W5」→ 子機「W5」



(接続を誤ると、子機は手動操作になります。)

- ②直列接続の場合 (11台以上の場合には、直列接続を交え並列接続を行ないます。)

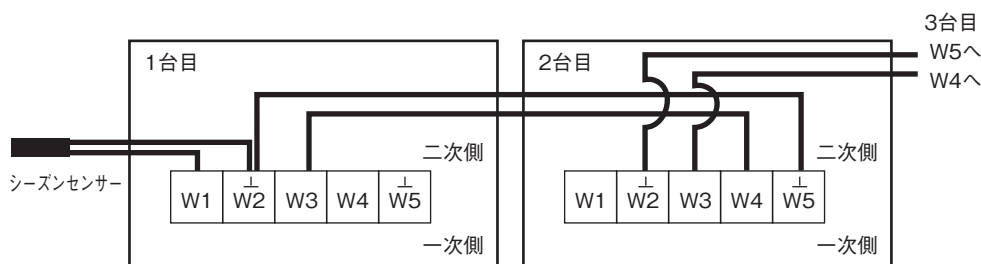
直列接続の場合、通信時間が1台につき1分程度遅れます。

直列接続の場合、制御電源をOFFにした機器の子機は、外気温の信号が受信できないため設定蓄熱量を手動で操作する必要があります。

子機間の接続 (極性あり)

子機「W2」→ 子機「W5」

子機「W3」→ 子機「W4」



MEMO

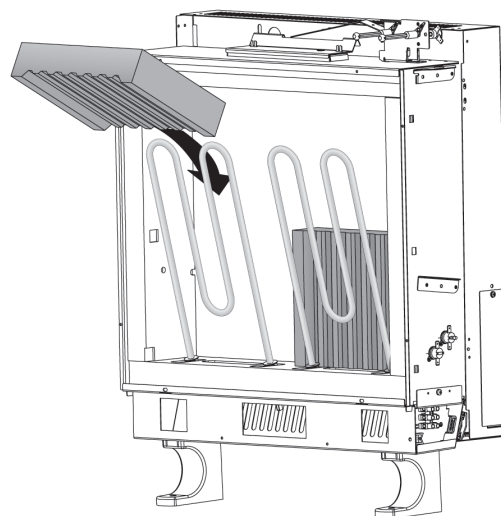
- WSP-TEJやWSP-TFJ、WSP-LJ/LJTといったファン内蔵の機器と接続する場合は、必ずWSP-SEJを子機とします。

7-3. 蓄熱体の組み込み

①蓄熱体は、ヒーターを前面側に傾けた状態にして、背面下段右側から組み込みます。

②蓄熱体間に隙間が生じないように、蓄熱体を右に詰めます。

③背面側下段の蓄熱体を組み込み後、背面側上段の蓄熱体を組み込みます。



④背面側の蓄熱体を組み込み後、前面側下段右側から蓄熱体を組み込みます。

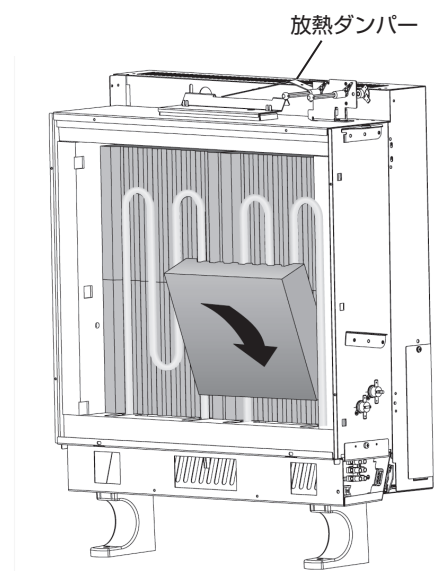
⑤前面側下段の蓄熱体を組み込み後、前面側上段の蓄熱体を組み込みます。

MEMO

○蓄熱体が割れている場合や、濡れている場合は機器に組み込まないでください。

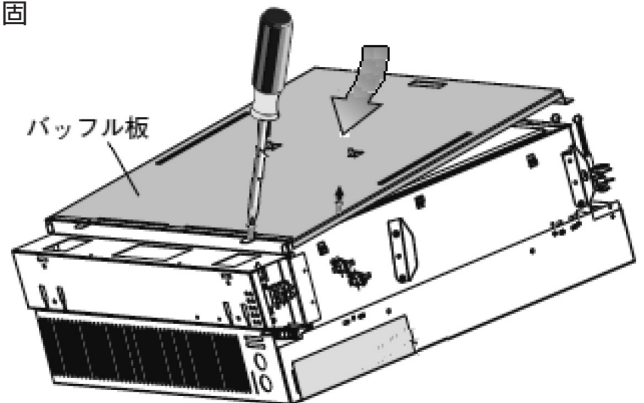
おねがい

- 断熱材のカバーを破らないようにしてください。
- 蓄熱体間に隙間が生じないように右側に詰めてください。
- 全ての蓄熱体を組み込み後、再度、機器が床面に対して水平であることを確認してください。

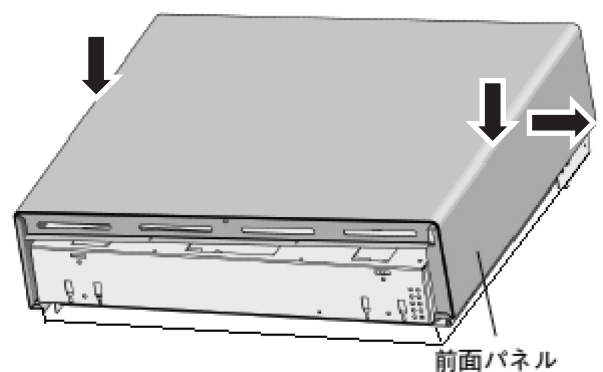


7-4. 機器外装の組み付け

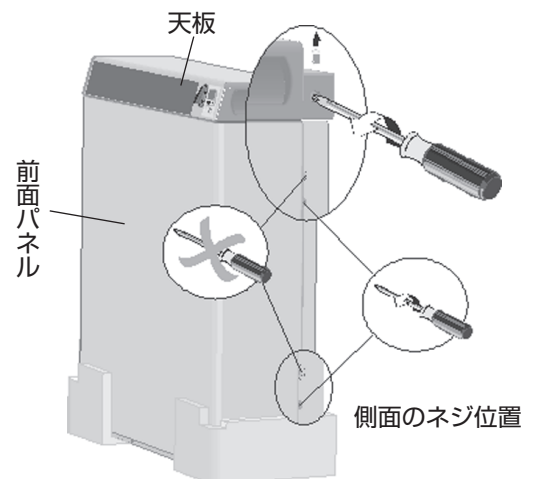
- ①前面バッフル板を機器躯体に差込み、全てのネジを止めて固定します。



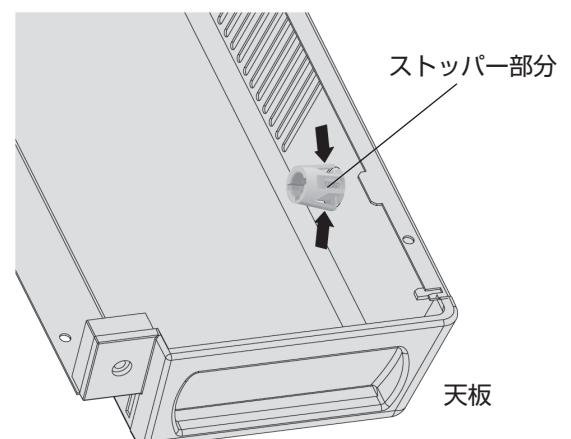
- ②前面パネル左側を差込み、次に右側を少し外側に開きながら差し込みます。



- ③前面パネルを下2本、左右各2本のネジで固定します。



- ④放熱ダイヤルのストッパーを押して、天板パネルから放熱ダイヤルを手前に引いて外します。
⑤操作部から外したコネクタを元の位置に戻します。
⑥天板を前面側から差し込むように機器の所定の位置に移動させます。
⑦天板を固定するネジを全て止めます。
⑧放熱ダイヤルをダイヤルの軸に合わせて差込み、放熱ダイヤルの設定を「6」にするとダンパーが開くことを確認します。

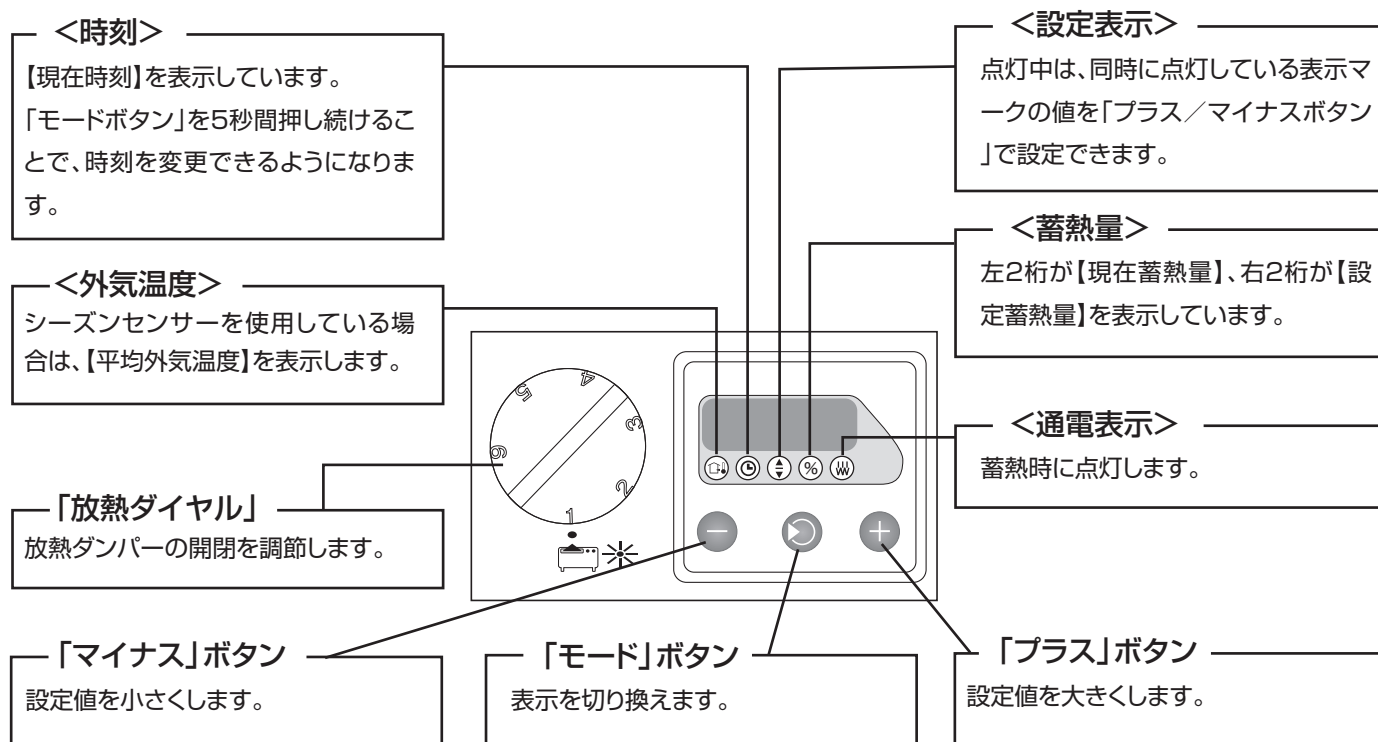


8. 試運転の手順

お客様への引き渡し前に必ず試運転を行なってください。

試運転後は、必ず検査記録、保証書、及び保証書（写）に必要事項を記入してください。

(1) 試運転



①200Vの専用ブレーカを「入」(ON)にして機器に電気を供給してください。

②P. 5「3-1項」を参照して、【現在時刻】(日本の標準時)、【通電開始時間】と、【通電時間】を、お客様の契約電力に合わせて設定します。

③P. 7「3-2項」を参照して、【設定蓄熱量】を100%に設定します。

MEMO

○シーズンセンサーを接続している場合は、P. 28「7-2-2項」を参照して、親機の端子台「W1」の配線を試運転の間だけ外しておきます。

④P. 11「3-3-2項」を参照して追焚きをして、電流値を計測した後、追焚きを終了し「設定蓄熱量」を0%に設定します。

⑤専用ブレーカを「切」(OFF)にして、電源端子とアース間の絶縁抵抗を確認します。

(2) 電流値と抵抗値表

ヒーター容量	電圧 (V)	総消費電力 (kW)	単相電流値 (A)	単相抵抗値 (Ω)
WSP-150SEJ	200	1.50	7.50	20.0
WSP-220SEJ		2.25	11.25	13.3
WSP-300SEJ		3.00	15.00	10.0

おねがい

○電流値が許容範囲に当てはまらない場合は、各ヒーターの片側の端子を外し、ヒーターの抵抗値を確認します。抵抗値が710%の許容範囲に当てはまらない場合は、ヒーターが断線、あるいは短絡の可能性がありますので、日本スティーベル (株) まで電話でご連絡ください。

○試運転終了後は、必ずファンをOFFし、追焚操作を終了してください。

(3) 絶縁抵抗

電気用品安全法に基づく技術基準により、機器の絶縁抵抗は1MΩ以上とされております。

使用開始時や長期間放置された後再使用する場合に、蓄熱体が吸湿したことにより、絶縁抵抗が減少し、運転開始後数時間で漏電ブレーカが誤作動する場合があります。このような場合は結線に誤りがなく、かつ絶縁抵抗が回復していることを確認の上、再度通電を行なってください。漏電ブレーカが即時に作動する場合は、配線、または漏電ブレーカ等に問題がある可能性があります。日本スティーベル(株)まで電話でご連絡ください。

(4) 検査記録

お客様名			
検査会社名			
検査者名			
検査日			
検査項目	検査結果	摘要	参照ページ
機器の絶縁抵抗		絶縁抵抗値を記載	P. 31 8
ブレーカの定格電流値		ブレーカの 定格電流値を記載	P. 31 8
現在時刻の設定		チェックのみ	P. 4 3-1-1
通電開始時間設定		設定時間を記載	P. 5 3-1-2
通電時間設定		設定時間を記載	P. 5 3-1-2
ヒーターの電流値		電流値を記載	P. 31 8
機器の離隔距離の確保		チェックのみ	P. 18 1
ジョイントボックスの位置		チェックのみ	P. 23 6-1
壁の補強		チェックのみ	P. 23 6-1
機器の壁固定		チェックのみ	P. 27 7-1-2
床の補強		チェックのみ	P. 23 6-1
機器の床固定		チェックのみ	P. 27 7-1-2
機器の水平設置		チェックのみ	P. 27 7-3
機器の外観		チェックのみ	_____
備考			

保証書

本書は、下記〈無料修理規定〉に基づいて下記型名の機器の無料修理を行なうことをお約束するものです。当該機器以外の機器類は、修理の対象といたしません。お取り付け日から1年以内に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、日本スティーベル（株）に修理をご依頼ください。

お客様	フリガナ		
	お名前 様		
お取り扱い店	社名	印	取扱者
	〒 住所		印
	電話 () -		
お取り付け日	年	月	日

型 名	WSP-150SEJ WSP-220SEJ WSP-300SEJ	
製造番号	- -	
保証期間	製 品	お取り付け日から1 ヶ年

機器はお取り付け日から1 ヶ年保証です。

★お客様へ

この保証書をお受け取りになるときは、お取り付け年月日、お取り扱い店名、製造番号の記載、並びに取扱者印の捺印があることを確認してください。保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

この保証書は、本書に明示した期間、次の条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

〈無料修理規定〉

1. お引渡しの仕様条件で取扱説明書、機器に貼られているラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、表記期間無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合には、日本スティーベル（株）にご依頼の上、修理をお受けになる時に本書をご提示ください。

「お取り付け日」の記載がない場合、日本スティーベル（株）の出荷記録に基づいて、出荷日を「お取り付け日」として起算します。

3. ご転居等、お取り付け場所を移動する場合は、予め日本スティーベル（株）にご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
 - (A) 修理、または交換を必要とする不具合部品を交換せずに継続して使用した場合。
 - (B) 使用上の不注意、過失による不具合、及び不当な修理や、改造による故障や損傷の場合。
 - (C) お取り付け後の移設、及び取付説明書に基づいたお取り付けがなされていなかったことに起因する故障、及び損傷の場合。
 - (D) 火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変、公害、腐食性ガス等の有害ガス、塩害、異常電圧、ねずみ、鳥、くも、昆虫類の侵入、及びその他の外部要因による故障、及び損傷の場合。
 - (E) 指定外の電源（電圧・周波数）で使用した場合の故障や損傷。
 - (F) 一般の建物以外（例えば車輦・船舶・粉塵やガスの浮遊する施設）等で使用された場合の故障や損傷。
 - (G) 砂、さび、ごみ、及びほこり等による不具合、故障、損傷があった場合。
 - (H) 消耗部品の交換、及び保守等の費用。
 - (I) 本書の提示が無い場合、お客様名、お取り扱い店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
5. 以下の場合に生じた費用、及び代金は、本書による無料保証の対象にはなりません。
 - (A) 理由の如何を問わず、機器設置後に、不適切な設定により増加した電気代。
 - (B) 機器を設置したことによって生じた使用場所とその周辺の変色、変形、異音等の補修費用。
6. 本書は日本国内においてのみ有効です。
7. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

STIEBEL ELTRON 日本スティーベル株式会社

STIEBEL ELTRON 日本スティーベル株式会社

TEL:044-540-3203

〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町66-2 興和川崎西口ビル8F

ホームページ <http://www.nihonstiebel.co.jp>

■製造者
スティーベルエルترون

機器の仕様、外観、及び価格は予告なく変更する場合があります。

本書の内容、所在地、電話番号は変更になることがありますので、予めご了承ください。